



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい  
**投信** なるほど  
リップパー

## コロナで変わった？① 新興国投信 資金逃避も株式と債券で違いが

新型コロナウイルスの感染拡大は投資信託にどのような影響を与えたのでしょうか。投信の分類やテーマごとに、シリーズで解説します。まずは、感染の広がりや止まらない上に、多額の債務を抱えるなど、経済状況の厳しさが増す新興国の投信です。

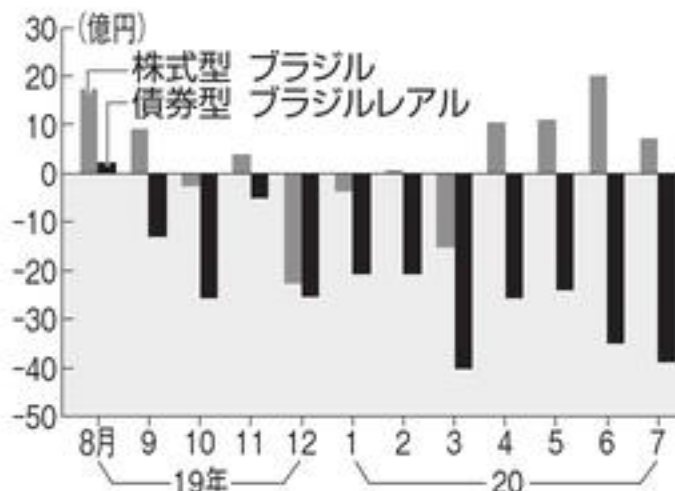
新興国への投資はリスクが

高いため、日本の個人投資家向けには、特定の国に絞らず複数の国に分散投資するのが主流です。単独の国では、株式型はインド、ブラジル、中国の投信の残高が多く、債券型ではブラジル、インドネシア、メキシコなどの通貨建ての投信があります。

株式型と債券型では、運用

### ブラジル投信は株式型が資金を集め、債券型は流出超過

国内で販売されているブラジルの株式投信と債券投信について、2019年8月～20年7月にかけて月ごとの設定額から解約・償還額を差し引いた。2020年7月はリップパー推計



の特徴や目標が異なります。新興国の株式投信は、高い経済成長に期待します。一方、債券投信では、リスクが高い分、高金利なので、高い利回りを得たい投資家が購入するのが一般的です。

左下グラフでは、株式投信と債券投信に分け、過去1年間の資金の出入りを集計しました。総じて、購入より解約が多く、流出超過の傾向でしたが、株式型と債券型ではコロナの前と後で少し違うようです。2019年8月～20年1月は株式型の資金流出が目立ち、20年2月～7月は債券型の資金流出が多くなっています。

「ブラジルのトランプ」と呼ばれ、過激な発言で知られるボルソナーロ大統領。当初、経済活動を止めない姿勢で大統領自身も感染。経済成長に期待する株式型に資金が集まったのもうなずけます。一方、債券投信は国の財政リスクに敏感で、右上グラフから、資金の流出が読み取れます。

新興国向けの投資は、高い経済成長や高利回りが魅力ですが、世界的にリスクが高まると、一転して資金が逃げ出すので注意が必要です。



「コロナで変わった？②」は9月25日に掲載します。

### 新興国投信の資金動向を新型コロナ前後で比較してみると

日本国内で販売されている、主要な新興国の株式オープン投信について、設定額から解約・償還額を差し引いた。上場投資信託(ETF)を除く。分類はリップパーによる。2020年7月分はリップパー推計

■ 2019年8月～20年1月累計  
■ 2020年2～7月累計

